

阿蘇市は今、まさに変化のときー。



元阿蘇市地域振興マネージャー

前田 香保里さん

プロフィール

前田香保里（まえだ・かおり）。東京都板橋区在住。全日本空輸（株）に客室乗務員として入社。その後、平成19年から（株）ANA総合研究所に入社し、現在に至る。

形となった二つの企画

（株）ANA総合研究所から阿蘇市役所に派遣され、地域振興の仕事をお手伝いさせていただきました。2011年1月に、初めて阿蘇市を訪れて以来、3年3か月の間、月に5日阿蘇市に滞在しながら仕事をしておりました。計算してみると、約200日近く阿蘇で過ごしていたこととなります。

この間にはたくさんの方がありました。言うまでもなく、九州北部豪雨災害のことは今でも胸がつまるような気持ちで思い出されます。そして、日々の中で起きた一つひとつの出来事も、かけがえのない大事な思い出となって記憶に残っています。

す。事業を進める中で、ご協力をいただいた地域のみなさまには心から感謝しています。今回、阿蘇で少しだけ形となった二つの企画についてお話ししたいと思います。

一つ目は、「阿蘇deスイーツめぐり」です。観光客が少しでも阿蘇市を周遊し、阿蘇のまちを楽しんでもいただきたいと企画したものです。チケット1枚を購入していただき、3店舗で好きなお菓子と交換ができるという仕組みです。

この企画は、参加店舗の方々が自らの時間と商品を使って創意工夫とご努力で継続されています。市役所の観光まちづくり課は事務局となり、実行委員会のメンバーである参加店舗の方々とともに活動し運営しています。この企画はすべて職員の手作りで始めました。チケットもチ

ラシも自分たちで作りはじめ

ました。最初6か月（1シーズン）の企画だったものが好評で、すでに2年半（5シーズン目）に入っています。日々のお店の経営で忙しい中、スイーツでもおもしろい中、スイーツで有名な結果だと思えます。今後とも阿蘇を訪れた方が、美味しい地元ならではのスイーツを巡りながら、そして、地元の方々と交流をしてもらえるきっかけになったら嬉しいと思っています。皆さんも、ぜひ一度、チケットを買って美味しいスイーツを巡ってみてください。

二つ目は「阿蘇のスキではうき作り」という企画についてご紹介し



お得な価格で美味しいスイーツが食べられると好評を得ている「阿蘇deスイーツめぐり」も、今回で5シーズン目に突入。24店舗それぞれ、バラエティに富んだスイーツを求めリピーターも多い。

ておきたいと思えます。

この企画は、阿蘇の草原と云えばスキ、という阿蘇ならではの素材をなんとか観光客にも触れてもらい、かつ、お土産品にならないか、

という考えから始まりました。

まず、「阿蘇市おひとり様女性モニターツアー」を企画し、その際に試験的に体験プログラムとして実施してもらいました。実際にお客さまとして作ってみての感想をヒアリングし、企画実施の可能性を模索してきました。そして、その冬、二つの地域づくりの会の方にススキを刈り取っていただき、そのススキで製作キットを準備し、体験プログラムとして販売する、という仕組みを試験的に作ってみました。

阿蘇の地ならではの資源を観光につなげることが可能であるなら、地域づくりの活動と連携し、市民の方が参加する「阿蘇ならではの地域づくりのプログラム」になるだろうと考えています。まだ試行錯誤の段階ではありますが、4月に千葉県にあるショッピングモールで開催された「くまもとフェア」に参加する形で体験プログラムを提供している様子を見に行ったところ、想像以上に盛況でした。子どもも大人の方も楽しんで作っていました。この企画もすべて手作りで練り上げ、地域の方にも参加していただく中でできあがってきたものです。

阿蘇の草原と地域の人々の活動、そして阿蘇を訪れた人が阿蘇の草原の素晴らしい思い出につながるような循環ができるなら、これ以上嬉し

いことはありません。これからの展開がとても楽しみです。少しずつ、ゆっくり温めていってほしい企画です。ぜひ、皆さんも一度作ってみてください。世界でたった一つのミニほうきを作ることができます。

この二つの企画は、地味で小さいものではありませんが、どちらも地域の方と一緒に考えながら形になっていったものです。そして時間はかかっても徐々に進化しながら阿蘇のひとつの観光資源となってきたと思っています。何かをやってみると必ず得るものがあります。失敗を恐れず、何かを始めることこそが大事なのだと実感しました。

次の時代に 向かい始めた 阿蘇市にエール

最後にぜひ触れておきたいことですが、私は、阿蘇の歴史で92年前（1922年）に内牧温泉で「内牧夏季大学」という取り組みを地域で行ったということを知りました。その当時に「学ぶ」ということをテーマに地域全体で外からのお客様をおもてなしし、多い時には数百人の参加者を得たという事実には驚くとともに、その企画と行動に移した人々の

熱い思いを感じました。

時代とともに観光のあり方も、私たちの生活も変化していきますが、かつてこの取り組みをされた先人たちも、きっと明日の阿蘇がもっと魅力的なまちになりますように、という思いでいろいろなことにチャレンジされたのだらうと思います。うまく行かなかったこともあったと思いますが、常に果敢に行動されたのだと思います。そして阿蘇の方々には、今もその精神は受け継がれているように感じます。熱

い思いの皆さまと一緒に仕事をし、過ごした時間は私にとって一生の財産です。

本来であればお世話になった方に、一人ひとりお会いしてお礼を申し上げるべきところですが、十分にお話をする時間もなく阿蘇とあとにしてしまいましたが、この紙面を借りてお礼申し上げます。

いま、阿蘇市は未来に向かって新たな取り組みを始



内牧で開いたススキのほうきづくりのようす

められ、まさに変化をしているのだと思います。私自身、もっと取り組みたかったこと、推進したかったことは多々ありますが、次の時代に向かって動き出した阿蘇市に、今後は東京から応援のエールを送ることにします。

長期間通いながらも、今なお阿蘇の魅力は尽きません。次は一旅行者として阿蘇を訪れたいと思っています。ありがとうございます。そして、また行きます！

田空 わがまち 自慢

第8回

碧水ホテルの里

碧水ホテルの里の皆さん



A S O 田園空間博物館では地域ならではの魅力を伝えるため、地域の方々と協力した散策イベントを定期的開催しています。

地域活動を活発に行っている団体の取り組みを紹介する「田空わがまち自慢」第8回目は、碧水ホテルツアーなどを開催している「碧水ホテルの里」（嶋村征司代表、10人）の皆さんにお話しを伺いました。

天然水が湧き出す 碧水のホテルも もう一度

碧 水校区には天然の水が豊富に湧き出ていて昭和35年頃にはたくさん

のホテルが生息していましたが、その後周辺の環境の変化によってホテルの数も減少してしまいました。

そこで平成20年頃からホテルを復活させようという取り組みが始まりました。平成23年頃にはホテルの数も増えてきたことをきっかけに、このホテルをもっとPRしていきたいと考えた地元有志が「碧水ホテルの里」を結成しました。

失敗の経験生かし 数万匹の増殖に成功

平 成23年5月に「碧水ホテルの里」を設立し、平成23年6月から毎年、A S O 田園空間博物館とともに「ホテルツアー」を開催しています。他にも年に2回の案内コース整備、清掃活動、ホテルの増殖を行っています。

ホテルの増殖は、全員が

素人であったため、自分たちで資料館に行きホテルの生態などを調べたり、阿蘇市でホテルの増殖を行っていた「阿蘇町ホテルの会」の会長を招いて、勉強会を開くなど増殖の仕方を学びました。増殖を始めた時は失敗が続いたため、「勉強したことをやっているのに、なぜうまくいかないのだろう。」「本当に成功するのだろうか。」という気持ちになりましたが、「北黒川をホテルでいっぱいしたい。」「北黒川のホテルをもっといろんな人に知ってもらいたい。」という強い思いから、もう一度、一から勉強を始めました。

その結果、次の年には数万匹のホテルの増殖に成功しました。最初はポウフラかと思いき、本当にホテルの幼虫なのだろうか疑問に思うほどでした。しかし、ホテルの幼虫と分かった時はとても嬉しく思うと同時に、この活動を継続していきたいという気持ちが湧き上がってきました。

この気持ちを忘れないためにも3回、碧水ホテルの里メンバーで、もっと北

黒川ホテルをPRする方法、今後どのようにして継続していくのかなどを決める会議を行っています。

案内コースの整備、清掃活動は、ホテルの住みやすい環境を作るために、ホテル生息地のゴミ拾いや自然の草木で川の流れが蛇行するように整備するなどの取り組みを行っています。また、ホテルツアーに参加される方々に、気持ちよくホテルを見ていただけるよう、案内コースのゴミ拾いやA S O 田園空間博物館と共に案内看板の設置を行いました。

こうした活動が評価され、平成26年にA S O 田園空間博物館から「田空賞」に選ばれました。そして、平成26年6月3日には、熊本日日新聞に碧水ホテルの里の活動のようすを紹介していただきました。

地域で連携し 魅力あるホテルの里に

現

在、後継者がいないことが一番の課題となっています。この課題を解決していくためにも、こ



- 1 数百匹のホタルが乱舞する国道 212 号付近の出現場所。
- 2 北黒川ホタルのPRする方法など、活発な意見が交わされる。
- 3 6月13日から15日の3日間にかけて開いたホタルツアーには、市外からの参加者もあり、大いに賑った。
- 4 ホタルの出現スポット。北黒川地区の広範囲にわたり、例年6月初旬から中旬にかけてホタルが見られる。

4

北黒川を ホタルでいっぱい

の活動の魅力、思いを子ども会や地域の人たちに伝え、もつと地域で連携をとりながら活動をしていきたいと考えています。そして、その中で若者の新鮮なアイデアを引きだし、それを取り入れながらもつと活発な魅力ある「ホタルの里」にしていければ良いと思っています。



黒川にホタルの養殖場を作り、ホタルを

今まで以上に増やしていきたいと考えています。また、案内コースの整備に力を入れ、ホタルの住みやすい環境にして、そこに養殖したホタルを放流して案内コースのメインスポットにしていきたいです。そして、昔のように各家々にホタルが迷い込んでくるような風景を作り、地域の子どもたち、北黒川を訪れた人と共に楽しみたいと考えています。そのためにも行政、ASO 田園空間博物館と今後も連携し、活動に取り組んでいきたいと思っています。